

## 第52回神戸市環境保全審議会 議事要旨

1. 日 時 令和3年12月16日 10時00分～11時43分

2. 場 所 三宮プラザEAST 地下1階

3. 議 事

### (1) 議題1 正副会長選挙

花田委員からの推薦、各委員の同意により、新澤委員が会長に就任。

新澤会長からの推薦、各委員の同意により、島田委員が副会長に就任。

### (2) 議題2 令和2年度 神戸市環境マスタープラン（環境基本計画）年次報告

事務局より、資料1をもとに説明

### (3) 議題3 神戸市環境マスタープランにおける重点施策に関する外部評価結果

事務局より、資料2をもとに説明

#### <議題2、3について一括質疑>

##### ○新澤会長

木材を利用して二酸化炭素を固定する取組みへの支援策はあるのか。

##### ●秋田課長

今のところ木質バイオマスに対する具体的な支援策は特にないが、どういう形なら神戸市で木質バイオマスを活用できるのか色々検討しているところである。神戸市には林業がないことと、木材の運搬にコストがかかることから、補助金を入れてもずっと赤字が続く状況になると予想される。しっかりと回る仕組みができるような方法を検討し、その仕組みに合わせたサポートの仕方を考えたいと思っている。

### (4) 議題4 地球温暖化問題への対応状況

事務局より、資料3をもとに説明

#### <議題4 について質疑>

##### ○中野委員

2015年9月に改定した神戸市地球温暖化防止実行計画において、電力の二酸化炭素排出係数の変化で影響を受けない最終エネルギー消費量で節電効果を表現したことは、神戸市の大きな特徴であったと思う。9ページのような温室効果ガスの排出量削減効果を表現する際は、最終エネルギー消費量も同時並行で表現して、市民、事業者による節電努力を表現出来るようにした方がよい。

また、太陽光パネルによる再エネ発電は重要な施策だが、一方で太陽光パネル設置による事故や被害の状況、太陽光パネルのリサイクルの状況なども同時並行で報告した方がよい。

##### ●甲本課長

最終エネルギー消費量は、市民や事業者の節電の取組みを直接的に評価することができ

る指標として重要である。改定は国のマニュアルに準拠して進めるが、神戸市らしい取り組みも大事であると考えている。2050年カーボンニュートラルを最終目標としており、省エネルギーの取り組みのみならず、再生可能エネルギーをはじめとしたエネルギーの転換も必須となる。従来の取り組みだけでは達成は困難と予想されるので、直接的に削減状況を把握できる温室効果ガスの排出量のほか、どのような指標を設定するのか議論していく。

●中村部長

神戸市は太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例で、災害が起こらないよう厳しい設置基準を設け、事業者から神戸市に対し維持管理状況の報告を義務付け、必要に応じ神戸市から事業者に対し指導を行うことにしている。これらの取り組み等を通じて、太陽光パネルの設置状況を把握して報告を行う。

また太陽光パネルの適正廃棄のため、条例で廃棄費用の事前預入を義務付けるなどの制度も設けており、確実に撤去してリサイクルするよう指導していく。

○新澤会長

最終エネルギー消費量も参考指標として入れるということか。

●中村部長

はい。

○川井委員

神戸製鋼所の高炉廃止で神戸市からの温室効果ガス排出量が減っている。発電所の増設でまた増えると思うが、高炉と発電所では統計の取扱いが異なるので分かりにくい。神戸市から排出される温室効果ガスの元データの中身を分かるように示した方がよい。

また、温室効果ガス削減では、メタンガスの削減も重要なので含めた方がよい。

●中村部長

神戸市内の高炉から出る温室効果ガスは全て神戸市からの排出として計上するが、神戸市内の発電所から出る温室効果ガスは、神戸市内で利用する電力分のみを神戸市からの排出として計上する。何を計上し何を計上しないのか分かるような形で示したい。

2019年度の神戸市域からのメタンガス排出量は5万3千トンで神戸市域からのガス種類別の温室効果ガス排出量の0.7%に相当する。農業分野や畜産分野からの排出や神戸市の廃棄物の最終処分場からの排出もあるので、メタンガス対策も計画に含めたい。

○益尾委員

神戸市の温室効果ガスの削減計画では、二酸化炭素換算において基礎排出係数と調整後排出係数のどちらを使用しているのか教えて欲しい。

またFITの電気が非常に増えてきている中で、それを利用している事業者もあると思うが、この場合の扱いはどうなるか。

○新澤会長

調整の意味も含めて説明して欲しい。

●中村部長

調整後排出係数を使っている。基礎排出係数は、発電のために使った燃料の燃焼に伴い排出された二酸化炭素排出量を電力供給量で除したもの。調整後排出係数は、例えばクレジットを購入するなど発電以外の方法で実施した二酸化炭素削減対策の効果も反映させたもの。

近畿地方では、以前は関西電力の電力利用が大半だったが、今はそれ以外の電力利用も増えているので、それらも可能な限り把握していきたい。

○新澤会長

全国平均の排出係数を使うのではないのか。

●中村部長

計画策定時の計算は全国平均の排出係数を使う。実績算定時は実際に使っている電力の排出係数を使う。

○藤原委員

12ページの文章について、「大気中の二酸化炭素をへらす」ということは、大気中に今ある二酸化炭素を減らすという趣旨か。また「CO<sub>2</sub>を排出しないライフスタイルをかえる」は「CO<sub>2</sub>を排出しないライフスタイルにかえる」ということだと思うがどうか。その他にも幾つか表現に気になるところがある。

●中村部長

ご指摘のとおりである。今後、文言を精査する。

○新澤会長

大気中の二酸化炭素の件はどうか。

●中村部長

「大気中の二酸化炭素をへらす」には、火力発電所やクリーンセンターなどから排出される二酸化炭素を吸収、固定、利用・貯蔵する、いわゆるCCUSや、森林が吸収した炭素をエネルギーとして使うことなく固定化して農業用の土壌改良材に使うといった取組みにより、大気中の二酸化炭素を減らしたいという思いも込めている。

○新澤会長

ここの表現は変えないのか。

●中村部長

趣旨が十分に伝わっていなかったことを踏まえて検討する。

○花田委員

神戸市は、バーチャルパワープラントの構築について、どのように考えているのか。

●中村部長

神戸市は今年度、水道局の配水池で民間の蓄電池を活用したバーチャルパワープラントの実証を開始したところ。今後もこのような取組みを広げたいと考えており、実行計画改定の中でも、様々な知見を頂きながら検討を深めたい。

○高尾委員

北区で以前電気自動車の実証実験が実施されたが今はどうなっているのか。太陽光発電

については、設置の際に地域住民とトラブルがないように行政の仲介等をお願いしたい。

●中村部長

電気自動車は増やしていく必要があると考えており、充電設備の充実などの環境整備に取組もうとしている。

北区山田町の太陽光発電は大規模な森林改変が行われたが、今後は自然への影響が出来るだけ少ない形で太陽光発電やその他の再生可能エネルギーの導入を進めていきたい。そして再生可能エネルギー施設の設置の際は、住民説明をしっかりと行い、住民理解を得て、住民の自慢になるような形で進めていきたい。

○新澤会長

神戸港や都市部に関する取組みもあるので、地球温暖化防止に向け、全庁的に取組むということ、実行計画のどこかに盛り込んで頂きたい。これまでのマスタープランの中から拾える部分も沢山あると思うので、それらも入れて頂きたい。

また、建築物等に一旦資本投資を行うと長期間影響するため、資本投資に関することはなるべく早く手を打つべきと考える。建築物の環境配慮推進に関し、国には建築物省エネ法があるが、神戸市独自のものはあるか。

●中村部長

CASBEE神戸という制度を実施している。

○新澤会長

カーボンプライシングは国の動向次第であるが、投資に関わる部分は、早めに手を打つ必要があると思っている。

○島田委員

2030年目標の実行計画の改定ではあるが、2050年を見据える中で、経過地点としての2030年ということ強く意識する必要がある。どのように2050年にカーボンニュートラルを実現するのか議論する良いチャンスなので、審議会だけでなく、市民、議会との対話を積み重ね、特に若い世代との対話を通じて、どのような社会をつくっていくかの議論を是非この機会にやって欲しいと思う。

●中村部長

様々な対話を深めながら、早期にそのような姿を市民、事業者に示し、共有できるように務めていきたい。

○朝倉委員

地球温暖化防止対策は全市的に取り組まなければいけない。神戸製鋼所の発電所が2基増設をされれば大量の温室効果ガスが排出量されるので市民だけでなく、事業者の意識転換も促進してほしい。

●新澤会長

来年の9月に向けて十分に検討できるよう、今後の検討の進め方については、私と事務局で議論していくので、その点、ご了解頂きたい。

## (5) 議題5 地球温暖化問題への対応状況

事務局より、資料3をもとに説明

### <議題5 について質疑>

○高尾委員

ペットボトルのキャップやつめかえパックのリサイクルについて、色々広報されているが、地域住民にあまり浸透していない。今後さらに啓発をしていただいて、地域住民が参加しやすく、分かりやすいようにしてほしい。

●佐々木課長

より御協力して頂けるように啓発を工夫していきたい。

○藤原委員

キャップを学校で集めることはできないか。子供たちは喜んで協力すると思う。

●佐々木課長

ワクチンに提供するという形で従来からキャップを集めている学校もある。学校との連携も強化していきたい。